

TruPhase の導入(21)
—MQA 音源の音質確認(1)—

1. はじめに

前報(20)の 11.2MHzDSD 音源に引き続き、MQA 音源を聴いてみます。

2. TruPhase の試聴方法

これまでの経過を踏まえて P&G のフェーダーに替えてパッシブアテネーターの TruPhase を使用し、RCA 入力→RCA 出力とします。なお、AACU-1000 は TruPhase の入力側と出力側にセットします。

音源は fidata HFAS1-S10 に収納し、USB 経由で Brooklyn DAC+ に送り出します。

fidata HFAS1-S10→Brooklyn DAC+→→(アンバランスケーブル)→(AACU-1000)→TruPhase→(AACU-1000)→(アンバランスケーブル)→Langevin 6V6pp

音源は、ディスクグラフィのページで報告してきた、ユニバーサルミュージック社から発売されてきた、一連の MQA 音源の中から選択します。

ベートーベン 交響曲第 5 番・第 7 番

カルロス・クライバー指揮ウィーンフィル

Universal Music UCCG-40069

ドヴォルザーク 交響曲第 8 番・第 9 番

ラファエル・クーベリック指揮ベルリンフィル

Universal Music UCCG-40074

ブラームス 交響曲第 1 番

カール・ベーム指揮ベルリンフィル

Universal Music UCCG-40081

マーラー 交響曲第 4 番

クラウディオ・アバド指揮ウィーンフィル

Universal Music UCCG-40082

スメタナ 交響詩《わが祖国》

ラファエル・クーベリック指揮ボストン交響楽団

Universal Music UCCG--40085

バッハ 無伴奏チェロ組曲第 1 番・第 3 番・第 5 番

ピエール・フルニエ

Universal Music UCCA-40001

R. シュトラウス 交響詩《ツァラトゥストラはかく語りき》第1曲夜明け他

ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮ウィーンフィル他

Universal Music UCCG-40079/89

枯葉 / キャノンボール他

アダレイ&マイルス・デイヴィス他

Universal Music UCCU-40126/7

3. TruPhase の試聴結果

ベートーベンの交響曲第5番・第7番は、正相で定位が曖昧ですが、逆相にすると音像が明瞭になり、定位がしっかりしてきます。MQAのデコード表示は352.8KHzで、以前の印象よりウィーンフィルらしい細かい表情がよく出ています。

ドヴォルザークの交響曲第8番・第9番は、正相で定位が曖昧ですが、逆相にすると音像が明瞭になり、定位がしっかりしてきます。MQAのデコード表示は352.8KHzで、以前の印象よりドヴォルザークらしい牧歌的な表情がよく出ています。

ブラームスの交響曲第1番は、正相で定位が曖昧で、騒がしい感じですが、逆相にすると音像が明瞭になり、オーケストラの構成がしっかりしてきます。MQAのデコード表示は352.8KHzで、以前の印象よりブラームスらしい構成の複雑な豪壮な表情がよく出ています。

マーラーの交響曲第4番は、正相で定位が曖昧ですが、逆相にすると音像が明瞭になり、定位がしっかりしてきます。MQAのデコード表示は352.8KHzで、以前の印象より流麗な表現がよく出ています。

スメタナのわが祖国は、正相で定位が曖昧で、騒がしい感じですが、逆相にすると音像が明瞭になり、定位がしっかりしてきます。MQAのデコード表示は352.8KHzで、以前の印象より抑揚のついた表現がよく出ています。

バッハの無伴奏チェロ組曲第1番・第3番・第5番は、正相で音像がぼやけ気味ですが、逆相にすると音像が明瞭になります。MQAのデコード表示は352.8KHzで、以前の印象よりフルニエのボウイングの様子がよく出ています。

R. シュトラウスのツァラトゥストラはかく語りき第1曲は、サンプル盤でオムニバスの盤です。ツァラトゥストラは冒頭の短い部分だけですので、ショパンのピアノ協奏曲を選びました。正相でピアノの音像がぼやけ気味ですが、逆相にすると音像が明瞭になります。MQAのデコード表示は352.8KHzで、以前の印象よりピアノの打鍵の様がよく出ています。

枯葉 / キャノンボール他は、サンプル盤でオムニバスの盤で、枯葉を選んで聴きましたが、正相で個々の楽器の音像がぼやけ気味ですが、逆相にすると音像が明瞭になります。MQAのデコード表示は352.8KHzで、以前の印象よりジャズらしいリアル

な表情がよく出ています。

4. まとめ

fidata HFAS1-S10 収納のハイレゾ音源の再生において、それぞれの MQA らしい持ち味が発揮されました。また、位相の把握も十分に可能でした。

以上